

令和6年度第2回練馬区在宅療養推進協議会認知症専門部会会議要録

- 1 日時 令和7年1月23日(木曜) 午後6時30分～8時
- 2 開催場所 オンライン
- 3 出席者 <委員>
古田委員、雄谷委員、塚本委員、佐藤委員、吉野委員、鶴浦委員、油山委員、志寒委員、樋口委員、横塚委員、豊委員、小川委員
吉岡委員(高齢施策担当部長:部会長)、西方委員(高齢者支援課長)、吉川委員(高齢社会対策課長)、阿部委員(介護保険課長)、内田委員(地域医療課長)
<事務局>
高齢者支援課
- 4 公開の可否 オンライン会議のため非公開
- 5 次第
 - 1 開会
 - 2 認知症月間の取組報告
 - 3 認知症ガイドブック(令和7年度版)について
 - 4 認知症施策推進基本計画(国)、東京都認知症施策推進計画中間まとめ(案)について
 - 5 令和7年度在宅療養推進事業スケジュール表
 - 6 在宅療養専門部会からの報告
 - 7 その他
 - (1)令和6年度在宅療養推進事業実施結果報告(令和6年12月末)
 - (2)令和6年度認知症予防講演会
 - (3)高齢者聞こえのコミュニケーション支援事業普及啓発チラシ
- 6 資料
 - 資料1 認知症月間の取り組みについて
 - 資料2-1 認知症ガイドブック(令和7年度版)案について
 - 資料2-2 認知症ガイドブック(令和7年度版)案
 - 資料3 認知症施策推進基本計画(国)、東京都認知症施策推進計画(案)
 - 資料4-1 令和7年度在宅療養推進事業スケジュール案
 - 資料4-2 令和6～8年度在宅療養推進事業
 - 資料5 在宅療養専門部会からの報告
 - 参考1 令和6年度在宅療養推進事業実施結果(令和6年12月末)
 - 参考2 令和6年度認知症予防講演会チラシ
 - 参考3 高齢者聞こえのコミュニケーション支援事業普及啓発チラシ
 - 参考4 認知症施策推進基本計画(国)
 - 参考5 第1期東京都認知症施策推進計画中間まとめ(案)
 - 参考6 第9期第2回練馬区介護保険運営協議会(令和6年11月19日)資料
- 7 事務局 練馬区高齢施策担当部高齢者支援課在宅介護支援係
電話 03-5984-4597
- 8 会議の概要

(部会長)

【開会、挨拶】

(事務局)

【出席確認、資料確認】

(部会長)

次第1 資料1 認知症月間の取り組みについて説明を。

(事務局)

【資料1】について説明。

(委員)

認知症フォーラムは大変盛況だった。講師の話も分かりやすく、また認知症ご本人や家族の方の心に沿う内容で良い評判だった。当日は、手話通訳と要約筆記が実施されたが、高齢者の方は聞こえにくい方もいるため、字幕が大変助かったとの声があった。

(部会長)

資料1について意見や感想はいかがか。

(委員)

当日は認知症フォーラムに相談窓口として参加したが、年々参加される区民の意識も高まっていると感じている。会場では、参加者へテーブルと椅子が用意されていたが、来場者から会場後方に車いすで来場した方のためのスペースがあるよとの声があったので次回以降に検討いただきたい。

(委員)

認知症月間のパネル展を拝見した。私たち介護職側としても非常に元気づけられる内容で、その中でも一番心に残ったのは、塗り絵コーナーだった。塗り絵コーナーでの子どもたちのメッセージで非常に良かったと思うものをひとつ読み上げさせていただく。「僕もそのうち認知症になると思います。みんながそうなればそれが当たり前になります。食べ物がうまい秋です。たくさん食べましょう」というメッセージがありまして、これをお子さんが書いたと思うと、非常に胸が熱くなり、まさに認知症基本法の目指すところという感じがして非常に感動した。素敵なパネル展だった。

(委員)

9月1日号区報については、地域包括支援センターで日頃から一緒に活動しているボランティアの方々や予防マネジメントで担当している区民の方からもご覧になったという声や感想をいただいた。パネル展については、認知症地域支援推進員一人だけではなかなか準備がすすめられないため、光が丘基本地区の7人の各地域包括支援センターの認知症地域支援推進員が協力して取り組みを進めた。練馬基本地区も同様に地域包括支援センターの認知症地域支援推進員同士の横の繋がりで今回パネル展に取り組んだ。

(委員)

認知症サポーター養成講座の標準テキストが改訂されてから2回目の講師を務めさせていただいた。以前のテキストでの講座を受講した方もいて、皆さん熱心に聞いてくださっていた。本人発信が大切とのことで、講座のなかほどでとうきょう認知症希望大使の長田米作さんのメッセージビデオを視聴いただく流れにした。当日は、アトリウムでも長田さんのビデオを上映していたが、認知症サポーター養成講座受講後の若い方が、立ち止まって再び長田さんの動画を熱心にご覧になっていたのでも声をかけさせていただくと「こんなにいいビデオを流して下さって本当にありがとうございます」との声をいただいた。若い方が熱心に認知症ご本人の声をきこうとされているのだなと思った。来年は、もう少し大きいディスプレイが用意できると、数人でご覧になりながら見ていただけるのではないかと思う。

(部会長) 認知症月間は今年度が初めての取り組みである。今後も工夫を凝らし良いものにしていきたい。

(部会長) 資料2 認知症ガイドブック(令和7年度版)案について説明を。

(事務局) 【資料2】について説明

(部会長) 資料2について、意見や感想はいかがか。

(委員)

毎年の改訂は、なかなかできることではないと思うが、今回もさらに見やすくなっていると感じた。老人保健施設の家族介護者教室の講師を頼まれたときには認知症ガイドブックをテキストに使用している。必ず「認知症とは」の話をするが、前回までの認知症ガイドブックは段落すべてが黒文字のみで4大認知症の部分が分かりづらかったが、今回はアルツハイマー型認知症、血管性認知症などの単語に色分けがされていて、非常に使いやすくなった。また、レカネマブの記載も具体的になっていて、また良い変化をしていると感じている。

レカネマブに関連して、勤務する病院は認知症の急性期治療病棟でBPSDの大変な人たちが入院してくる病棟だが、レカネマブは取り扱いがない。実際の状況はどうなのか各病院の様子をお聞きしたいがいかがか。

(委員)

レカネマブまたはドナネマブについては昨年11月末に2剤目が発売になりましたが、当センターはレカネマブを当初から投与しているので、問い合わせは比較的多いと思う。練馬区内であれば、順天堂練馬病院が初期投与施設としてご活躍されているのではないか。当センターのもの忘れ外来の受診者には、対象であれば希望の有無に関わらず説明をしている。絶対に使いたいという方は多いかということでもなく、高齢の方は結構ですと断る方も相当いる。またまだ地域の、一般の方に対して、レカネマブのような薬ができて軽いMCIレベルで対象となる、という知識がそれほど広ま

っていないのではないかと思います。情報を求める人たちは知っているが、そうでもない人達は説明を聞くと驚かれる人の方が多い印象である。

(委員)

順天堂病院のレカネマブ治療に関しては、昨年3月に区と協定を結ばせていただいている。区から対象者へ病院のご案内をし、治療へ結び付けていただくこと、治療の効果についても情報共有させていただき内容で協定を結ばせていただいている。レカネマブの治療対象であり、医師から案内も受けている方が治療につながるかということ、やはりまだハードルが高い状況と伺っている。

(部会長)

また新たな状況が分かれば皆様に情報提供をしていきたい。

(部会長)

認知症ガイドブックの表記についてはいかがか。

(委員)

色分けなど様々対応していただき見やすくなっている。認知症ガイドブックからは逸れてしまうが、認知症に関する用語が専門的で分かりにくい。また、いざサービスを使おうとした際にでてくる用語、例えば小規模多機能型居宅介護などの用語が難しく、カフェに来る方々に説明する際に正式名称は専門的で分かりづらくため使えないので、簡略化できないか、もう少しわかりやすくていいかということの日々考えている。認知症ガイドブックはとても見やすくなったと思う。

(部会長)

皆様からいただいた様々な意見を踏まえて今回の改訂案を作成させていただいた。今回の改訂については案のとおり事務局に一任いただき最終的な編集を行う。今後も認知症ガイドブックについて気がついた点があれば意見などお寄せいただきたい。

(部会長)

資料3 認知症施策推進計画(国)、東京都認知症施策推進計画中間まとめ(案)について説明を。

(事務局)

【資料3】について説明。

(部会長)

資料3についてご意見やご感想はいかがか。

(委員)

認知症基本法により共生社会が前面にでたことは素晴らしいことだ。しかし認知症との共生社会を目指すうえで、認知症以外の障害ある方との共生社会が基本になると思う。認知症だけに限らない視野で進めていただきたい。

(委員)

認知症疾患医療センターとしても認知症基本法の理念に則り、各種事業の取り組みに反映させていきたい。

(委員)

キャラバン・メイトとして区の認知症サポーター養成講座だけでなく職場や近隣施設で活動しているが、オレンジリングをつけて仕事することがやりがいに繋がる人もいて、施設職員全員が受講したことがあった。今後もできる限りいろいろな場所で認知症サポーター養成講座を開催していきたい。

(委員)

資料には、認知症の本人、家族との意見交換とあるが、地域包括支援センターでは本人ミーティングを開催し、田柄地域包括支援センターでは家族会もあるが、その他の介護保険事業所、例えば小規模多機能型居宅介護やケアマネジャーなど各サービス事業所で関わっている認知症の方も、デイサービスを利用される時などにも何かしらおっしゃっているのではないかと。色々な方からお話を伺ったり、各事業所を通じて本人の思いを集めたりすることもできるのではないかと。思う。

(事務局)

認知症のご本人ご家族の方の意見を広く拾うこと、また意見をいただきやすい環境などにも配慮していきたい。

(委員)

当施設の家族会運営推進会議に地域の方にもぜひ参加していただきたい。当施設の家族会には比較的男性介護者が多く集まっていて奥様を介護されている。年齢も似通っているが、認知症の進行度合いはまちまちである。そのような中で男性がどうしても介護が自己流になってしまうことなど、皆さんが「僕の時はどうだった、きみのところはどうか？」と女性職員に尋ねるよりも、男性介護者同士で話をし、教えあう雰囲気ができている。いろいろなところに目を向けたり、皆に聞いてもらえることの大切さ、皆に知ってもらえることのありがたさなどが実感できて良いのかなと思っている。ぜひ皆様にご参加いただきたい。

(委員)

当施設でもご家族の相談は、男性介護者が多い。心優しく受け止めている方が多い印象である。

当施設の利用者は重度の方が多く、何がしたいと言うことは難しい。支援者でくみ取ってこういう風にしよう、ああいう風にしようと働きかけても覚醒してられず5分ほどで眠ってしまう方が

多い。声を拾うにあたり話せる認知症の方とは少し違うと感じている。

(委員)

当事業所の利用者の場合、認知症の症状自体は軽いが一人暮らしは成り立たなくなった方、また、身寄りのない方が増えてきていると思う。認知症が軽度でも生活が成り立たなくなったという理由で来ている方の中には、すでにスマホを使って YouTube も使いこなす人もいて、多様性に富んでいる。そうした方の意見を代弁していけるような、もしくは情報発信を手伝っていけるような形作りをしていきたい。

別件だが、1月5日に板橋区で小学生が、コンビニエンスストアで、携帯電話をかけながら ATM を操作していた高齢者に気がつき、特殊詐欺を未然に防いだことがあった。まさしく N-impro の設問に、電話をかけながら ATM を操作している人に声をかけるかかけないか、というものがある。N-impro を通して、認知症の人にやさしいまちづくりというか、認知症のひとを支えるまちづくりが、まさしくすべての人を支えるまちづくりに繋がっていると感じて胸が熱くなる出来事だった。

(委員)

薬局の役割としては、ご本人であれば認知症の自覚がない場合や、ご家族であれば、ちょっとうちの主人の様子が変わるのだけど、等、認知症について少し知識はあるけれどまだ自分事となっていないような方々に対して、専門的なところに繋いであげることだと考えている。この意味で認知症ガイドブックは非常に活用できる。

連携していくための窓口的な役割を薬局が担えるようになればと思う。薬剤師会としては、処方箋をもってきた方に調剤するだけではなく、区民の方々のライフステージ全般の相談に乗れるような、かかりつけ薬局を目指している。

(部会長)

次第4 資料4 令和7年度在宅療養推進事業スケジュールについて説明を。

(事務局)

【資料4】について説明。

(部会長)

【資料4】について質問や意見はいかがか。

(委員)

介護相談交流カフェについて、この猛暑で夏季の開催が困難なため予定回数の実施に苦慮している。

(事務局)

今後の開催については対策を相談していきたい。

(委員)

介護学べるサロンの開催状況について、昨年1回、2月に2回目を実施する。地域の方は介護学べるサロンに関心のある方が多く、10名募集のところ13名～14名の方が来場されている。ケアマネジャーによるミニ講座がみなさんの心に響いている様子である。回数を増やして実施できると良いと考えている。実体験としても、認知症予防や介護予防につながる頭や身体の体操の大切さやそうした場や機会がある大切さを感じている。

次第5 【資料5】在宅療養専門部会からの報告について説明を。

(事務局)

【資料5】について説明。

(部会長)

【資料5】について、意見や感想はいかがか。

次第6 その他について説明を。

(事務局)

【その他】について説明。

(部会長)

その他について、意見や感想はいかがか。

(部会長)

全体を通して、意見や感想などはあるか。

(部会長)

【挨拶】

閉会